1	４番　　岡　田　　義　晴　　議員 ①　電子回覧板の導入について 　昨今、日本全国の様々な自治体で電子回覧板の導入が話題となっています。また、早々に導入した自治体は、その効果が各方面から注目を集めているようであります。 　この電子回覧板の普及の要因としては、自治会・町内会の役員のなり手不足や高齢化に伴う様々な仕事の負担を軽減したいというニーズが挙げられます。また、電子回覧板の導入のメリットは、自治会住民の側と行政側との双方から多く挙げられています。まず、住民側のメリットとして情報へのアクセス（情報を取り出すこと）の向上、忙しい人でもいつでもどこでも手軽に確認できること、緊急時の役場からのお知らせなどもタイムリー（適時に）に手に届くこと、回覧板が回ってくるのを待つ必要がないこと、そして何より回覧板を持って回る班長さん達の負担の軽減が可能となることなどが挙げられています。一方、行政側のメリットとしては、紙や印刷にかかる費用を抑えられコスト削減が期待できること、広報誌などの配布の手間が省け職員の負担軽減につながること、そしてより多くの住民に情報が行き渡り情報発信力の強化につながることなどが挙げられています。 　では、本町の状況はどうかと言うと、自治会ごと各班長さんが回覧板を班員の各家庭に歩いて届けていますが、不在がちの家や共働き世代の家などがあり、受け取られているのかが分かりにくく、回覧のスピードも鈍くなる傾向もみられているようです。よって役場からの重要な情報が適時に届かない可能性があり、住民サービスの向上という観点からもより改善が求められます。 　このような状況を考えた時に、近年、様々な自治体で導入されつつある電子回覧板を本町にも早急に導入しては如何かと提案をしたい。ただ言うまでもなく、自治会活動の主体者たる者は、あくまでその地域に住む住民自身であります。そのことを踏まえた上で、以下の質問をします。 （１）電子回覧板の導入について町の現在の考えを伺う。 （２）電子回覧板の導入に際してのデメリット、マイナス面など課題があるとしたらどのようなものか伺う。 （３）先行事例の調査や住民へのニーズ調査などを行う考えがあるか伺う。 ②　老人福祉センター丸田荘入浴施設について 　先月１４日と１６日に老人福祉センター丸田荘の今後の方向性についての説明会が催され、来年３月に入浴施設を廃止するとの説明を受けた。このことについて幾つかの質問をします。 　丸田荘の入浴施設は、単にお風呂に入る場所としてではなく、地域住民の交流の場や情報交換の場として重要な役割を担ってきた側面もあります。ましてや独居高齢者にとっては、入浴の機会においての数少ない選択肢としての存在感は大きいと思います。 　このようなコミュニティ機能や福祉的な側面を考えると、ただ単に入浴者数では把握できない、数値化しにくいニーズも存在することも忘れてはならないと思います。また、いつ起きるとも知れない災害発生時の役割としても、万が一の時の備えとしての入浴支援に大変に有効であり、住民生活に絶対の存在価値が残されていると思います。 　自治体が「ニーズがない」と判断する際は、単に数字的な、かつ表面的な利用者数だけを言うのではなく、地域の文化、福祉、防災といったもっと多角的な視点から、このような施設が地域にもたらす有形無形の価値というものを総合的に評価し、更にもっともっと住民との対話を通じて慎重に判断することが求められている。かつて上長与地区の同様の入浴施設の廃止の際も地域住民の強い反対意見があ

	ったと聞いている。民主主義の社会は、当事者同士の話し合いのプロセス（過程）を最も大切にする社会です。現在のところ、町民との対話の回数もやや少ないのではないかと感じています。そうした中、今回の説明会では「老人福祉センター丸田荘の今後の方向性について検討しており、説明会を開催します」としながら、その実は、「廃止します」とのお知らせでした。参加者の中からは、「始めから決まっていた事なら何故わざわざ説明会を開いたのか。もっと早く言うべきだ。時間の無駄じゃないか」などの批判が相次ぎました。その上で、町の一方的な廃止の論理のように取られかねないよう細心の配慮を今少し重ねるべきと思うが、改めて町の考えを伺う。